

# 自分のスピーチを ICT 端末で録画して改善箇所を探し、繰り返し練習して表現を練る学習

第5学年

事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう

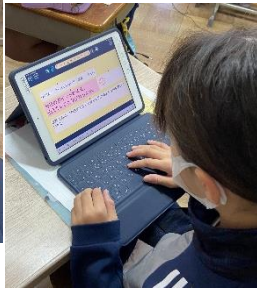
## こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 録画した自分のスピーチを客観的に見ることで、説得力のあるスピーチになっているかを自覚することができました。
- 繰り返し再生したり仲間と比較したりして、よりよいスピーチにしようと主体的に取り組む姿が生まれました。

## ICT 端末と協働学習支援ツールの活用による効果

自分のスピーチを ICT 端末で録画し、再生して改善箇所を探し、練習を繰り返す。

- ・自分のスピーチの様子を客観的に見ることで、目的や相手に応じて、自分の考えが相手に伝わる表現になっているか、話す速さや間は適切かなどを自覚し、練習を繰り返しながら聞き手に伝わるような表現の工夫を考えることにつながる。
- ・共有フォルダを開いて仲間のスピーチを聞き、コメントを書き込む。児童はコメントを読んで改善しながら、再度練習を繰り返す。



## 教師の指導のポイント

- 画面録画したものを協働学習支援ツールの提出箱に保存させることで、スピーチを何度も練り直す様子を評価したり、手立てが必要な児童を随時確認して指導に当たったりすることができるようにする。
- 表現の工夫が見られる児童を意図的に取り上げて全体交流で指名することができるようにする。
- ヘッドセットを使用することで、全員が同時に話すことができ、クリアに録音できるようにする。

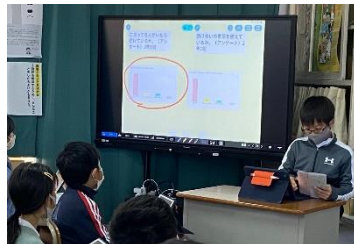
## ICT 端末と大型提示装置の活用による効果

スピーチをグループや全体で交流し、改善点を見つけ、助言し合ったり、よさを学び合ったりする。

- ・授業の前半で共有した「拡大」や「ポイント」、「表現の工夫」等、観点を提示して交流する。
- ・自分のスピーチと比較して聞いたり、目的や相手に応じたスピーチになっているかを互いに助言し合ったりする。

仲間から学んだよさを、必要に応じて取り入れながら、自分のスピーチを完成させる。

- ・仲間と交流することで学んだ表現の工夫を、相手や目的に応じて再度練り直し、録画保存する。
- ・振り返りでは、はじめの録音とどのような変容があったのかを自覚し、学びを言語化する。



表現を工夫することで、スピーチのどのような内容が補足、強調されたのかを考えさせることで、資料活用をより理解することができます。



## 教師の指導のポイント

- 全体交流では、表現を工夫している児童を意図的に指名し、スピーチの目的や相手を再度確認し、よさやその効果を共有できるようにする。
- 表現を考えながら伝えたい内容をスピーチしようとしているかなどを確認することで、主体的に学習に取り組む態度を評価する。